校長室の窓から

校 長　三 輪　秀 文

本校は、学校の構造上、校長室の窓から生徒の様子がよく見えます。登校時や下校時の生徒の様子はもとより、各学年の教室棟や渡り廊下の雰囲気も校長室によく伝わってきます。こういう学校の構造は、私の知る限り、他にはないように思います。

校長室の窓より

生徒と接する時間が極端に少なくなる立場にいて、学校という気配の感じることのできる校長室は、とてもすばらしい場所だと実感しています。

逆に言えば、生徒からよく校長室が見えるということでもあります。過日も、ある先生が、生徒から「よく校長室にいるけど、何してるんですか？」と、声をかけられたとのことです。勝手な思い込みかもしれませんが、そのエピソードを聞いて、授業も、担任も、顧問もしていない一人の教師のことを、少しは関心を持って見てくれているのかもしれないと、ちょっとうれしい気持ちになりました。

本校に着任して、もうひとつ新たに感じている言葉があります。それは、「登校」「下校」という言葉についてです。長岡の高台に位置する本校は、生徒にとっても、われわれ教師にとっても、学校にやってくることは、「登校」という行為そのものだと感じます。学校に続く長い坂を登り下りしながら、多くの生徒が通っているわけで、文字通り「登下校」なのです。これが、単なる登り下りという行為だけではなく、気持ちの面でも、みんなの集まる学校へ“気持ちを高めて、登っていく”登校であって、リラックスできる家庭に帰っていく下校であってほしいものです。

校長室より南校舎を

学校と家庭、それぞれ役割は違いますが、双方とも子どもたちの成長を大きく左右する環境であることは確かです。この１年、家庭や地域と手を取り合いながら、子どもたちの最善の環境づくりに励んでいくつもりですので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。